

令和2年度 中央区立京橋築地小学校 外部評価報告書

評価委員会名：中央区立京橋築地小学校・中央区立京橋朝海幼稚園評価委員会

評価委員：松岡誠一郎委員長 徳堂康彦副委員長 森田俊秀委員 江村光良委員
鈴木康介委員 中村輝樹委員 片山善明委員

評価時期 令和2年2月

1 重点目標の評価

重点目標1 『確かな学力を育てる』について

今年度、重点目標を「言葉の力を育てる」から「確かな学力を育てる」としたのは学力を一層重視しようという表れで理解ができる。だが、外国語などを学ぶ時代だからこそ、基礎となる日本語の力を身につけることは引き続き大切である。日常の授業をはじめ、本校の特色でもある様々な読書活動や今年度は中止になってしまったが、詩の集会への取り組みや保護者による読み聞かせを今後も大切にしてほしい。また、この状況だからこそ、オンラインを活用した教育も必要である。

重点目標2 『互いに認め合い、思いやる人間関係を育てる』について

今年度は他学年との交流や幼少との交流は難しかったのではないと思う。だが、学年間のつながりの深さは本校の誇れるよさである。学校評価の先生に悩みなどを相談できるかという項目の数値は下降気味である。このような状況で子ども達には不安もあるかもしれないので、これからも子どもに寄り添ってほしい。校長先生が毎朝、子ども達と親しげに挨拶をさせていただいているおかげで児童の挨拶の数値は上がっている。学校全体で規範意識を育てていくことが大切である。これからも児童に関わる大人が模範になり、育てていきたい。

重点目標3 『丈夫な体とたくましい心を育てる』について

館山臨海学校、運動会、持久走大会が中止になってしまっていて残念だが、致し方ないと思う。遠泳については来年度、実施できたとしても今年度の経験がないので例年のようにはいかないのではないだろうか。無理にこれまでの遠泳を目指すのではなく、泳ぎの基本に立ち返って欲しい。運動会についても密にならずにできる方法を検討してほしい。

2 今後の改善に向けた意見

コロナウイルス感染症が収束しても、以前の教育活動に焦って戻すと子どもの心や体の負担が大きいため方策を考えてほしい。また、コロナ禍はいろいろな部分で見直すきっかけになったのではないと思う。今後に生かしていただきたい。

3 その他の意見

特認校制度が始まって2年目になった。この制度で来年入学する児童は5名程度だと聞いている。1年目も同程度の人数なので本来この学区だけで子どもは十分にいます。特認校制度に反対というわけではないが、特認校指定にしないでよかったのではないかと。